

岩手県重症心身障害児(者)を守る会

第128号

2025.9.15発行

会
報

TSK 愛の手



編集者／岩手県重症心身障害児(者)を守る会
〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内
TEL.019-601-2255 FAX.019-601-2255(共有)
E-mail : mamoru2255@gmail.com
発行者／東北障害者団体定期刊行物協会
宮城県仙台市青葉区角五郎1-12-6



守る会の 三原則

1. 決して争ってはいけない 争いの中に弱いものの生きる場はない
1. 親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えること
1. 最も弱いものをひとりももれなく守る

東北ブロック大会全体報告

会長 遠藤 和彦

去る、8/23、24 青森県八戸市のグランドサンピア八戸にて第26回東北ブロック大会・研修会が行われました。大会には、会員・賛助会員・来賓の方など総勢約150名が参加し盛大に行われました。岩手県支部からは、23名の方がバス1台に乗車（一部の方を除く）し会場までの間親睦を兼ねて移動しました。参加された方々、お疲れ様でした。ブロック大会には、全国重症心身障害児(者)を守る会 安部井会長の出席を頂きました。式典での安部井会長の挨拶を一部紹介いたします。

1. 今般、全国で自然災害が多く発生しています。災害が発生した時に会員の被災状況が把握できる連絡網を各県支部内で確立させて頂きたい。
2. 亡き北浦前会長や先人の方々が60年間活動し取り組みの成果により、現在の各種福祉サービスを受けられる恩恵を認識して欲しい。
3. 先人の積み立てて来た各種施策を絶やささないで頂きたい。
4. 守る会の活動は、トップダウンの会ではありません。ボトムアップの会なので、皆さんの声を各県支部長へ上げて下さい。支部長は、ブロック長に上げて本部へ報告して下さい。

以上の内容について、安部井会長より参加した皆さんへ要望がありました。今回、大会のテーマが「みんなで、語ろう、つながろう」と題して、大会を通じてひとりでも多くの仲間と語らい各地域に戻ってからも繋がりが続けられるよう、参加者が手作り名刺を交換しました。二日目の分科会では、「国立施設」「重症児施設」「在宅」それぞれの部会毎小集団にグループ分けを行い、テーマ設定を行わないで、自由な発言により課題や今後に向けた情報交換を行いました。今回の分科会で出された問題点・課題については、各県支部に持ち帰り支部内で継続した活動を進めて参りますので、会員の皆様からの声を頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



あべい 安部井会長挨拶



安部井会長（前列中央）と東北ブロック役員との集合写真

東北ブロック大会・研修会に参加して

岩手あすなろの会 齋藤 公子

第一分科会（国立施設・重症児施設）のグループディスカッションがとても有意義でした。

各県それぞれ6人～8人のグループ分けをし、各施設の面会状況、親の会活動の現状や参加者の思い、病院・施設職員や療育指導室との関わり方など活発に意見交換できました。

面会は、施設毎に違いました。守る会、親の会への声かけの仕方もそれぞれ悩まれ、工夫されていました。成年後見人を親が担っている場合、親ができなくなった時は、誰に託すか等、活発な話し合いができました。

今回の青森大会「みんなで語ろう・つながろう」のスローガン通りの私にとっての実りある分科会でした。

母親部会長 伊藤 恵美

今回、東北ブロック大会に本部から安部井会長がいらした事が大変うれしかったです。

また、講演で、本部の青木氏が、何もしなかったら何も変わらない。親が動くはじめての一步が一番大事であり、それが世の中を変えていく。ゼロから一にする事が世の中を大きく変える事だと語って頂き、守る会の重要性をひしひしと感じました。

「話すことが悩みを離すこと」との話にも感銘を受けました。

その他、青森支部作成のつながるための名刺を配り合い、参加者と繋がったり、分科会では皆が話す等、今までにない試みで、とても充実した楽しい大会でした。



本部 青木理事の中央情勢報告



懇親会



東北ブロック役員紹介

在宅・母親部会合同施設見学報告

母親部会長 伊藤 恵美

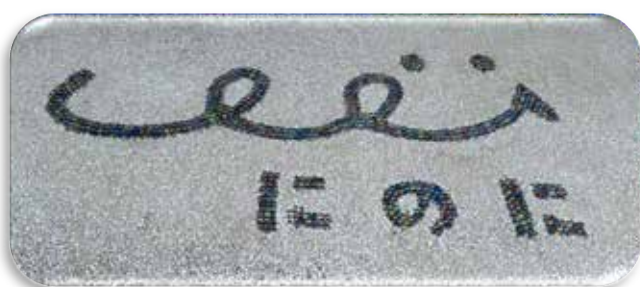
令和7年8月22日(金)、東北ブロック大会前日に5人で見学をさせていただきました。
多機能型重症児者デイサービス「にこっと秋田」は重症心身障害児者及び医療的ケア児者のための放課後等デイサービス、生活介護、ショートステイの施設であり新築の建物で運営されています。施設設計や運営の工夫により利用児者、職員双方にとって利用しやすい環境が整備されていると大いに感じられました。

建物は清潔感と明るさが印象的でした。エレベーターは、病院のような大きいものではないですが利用者、職員ともに安全に利用できるように配慮されていました。**特殊浴槽**が設置されており、動ける医療的ケア児が使用できる便利な折り畳み式の浴槽も整備されていました。

食事時間に見学させていただきましたが、複数の介護職員が配置されており支援が充実していました。又、職員は若い方が多く明るく活気のある雰囲気でした。

医療的ケアに必要なものは、整理整頓され効率的に活用できる状態で保管されていました。壁紙を決めたり、外のコンクリート部分に**事業所名のロゴをビー玉で書く**等「利用者さんが参加できる」視点で建築をされていることも知りました。

重症心身障害、医療的ケアのある方の特性に配慮されており、今後利用者が年齢を重ねても過ごしやすいことを存分に感じられる施設でした。



利用者さん手作りのロゴ ビー玉飾り



特殊浴槽

岩手県に要望書提出

6/17(火)に以下の5大項目に関する要望書を県に提出し、要望書の内容に関係する担当課の方々と懇談してきました。岩手県議会議員の福井せいじ氏、臼澤勉氏にも終了までご同席いただきました。県からは書面にて回答いただきましたので後日改めてお知らせいたします。

1. 在宅で暮らすための必要な支援について
2. 人材育成について
3. 教育について
4. 保育・幼児教育について
5. 災害対策について



岩手県障がい保健福祉課 佐々木総括課長に
遠藤会長から要望書提出

市民公開講座にパネル出展

今年度で2回目となる、岩手県医療的ケア児支援センター主催、市民公開講座「つたえたいこと」にパネル出展しました。約20の団体や事業所などが出展し、えんげ食や防災・歯科の体験コーナーもあり人気でした。重症心身障害児(者)すべてが医療的ケアが必要なわけではなく、出生直後から必要な人・成長とともに必要になる人・医療的ケアの内容等が変更になる人が他の障害種の方より多いこと等や、会の活動内容等を掲示してきました。当事者・当事者家族・支援者・教員・医療職・福祉職・行政・議員・一般の方々と昨年よりも多くの方が来場されていました。重症心身障害児(者)を知ってもらうためにも今後もこういった機会を利用したいと思います。



愛の手リレー16

「娘と共に」

盛岡医療センター 木村直子

私が、神奈川から盛岡へ引っ越して間もなく娘の夏佳を授かりました。待望の女の子。長男と同じように五体満足健康に生まれてくるものと、当然の様に思っていました。里帰り出産のため実家近くの長男を出産した産婦人科へ定期検査に行くと、直ぐに大きな病院を紹介され、生まれる迄はわからないが脳に先天性の奇形がみられる。と言われました。



出産後1ヶ月の入院を経て盛岡に戻りましたが、知人もいない。相談できる人もいない。主人は出張の多い人。盛岡で夏佳をちゃんと育てられるのかとても不安でした。

近くの小児科へ行くと、つい同じ月齢の子と比べては、夏佳を抱きしめながら、「健常な体で産んであげられなくてごめんね」と泣きながら帰ったことも何度もあります。そんな時、「わらっこ」へ行ってみないかと保健師さんから電話がありました。私は、夏佳のことを障がい者と認めてしまうようで、お誘いを何度もお断りしましたが、「1回だけでも。」と、あまりに熱心に進められるので、とりあえず行ってみることにしました。しかし、その事がきっかけで、夏佳と私の人生のレールがどんどん繋がって行くことになったのです。

「わらっこ」から始まり、「つくしんぼ」「盛岡となん支援学校」「しいのみ」「カラフル」「かがやき」「盛岡地域福祉センター」「県立療育センター」「岩手医大」「みちのく療育園メディカルセンター」いろいろな場所で、たくさんの方々に導き助けて頂いたおかげで、在宅の24年間を支えて頂きました。

そして、今年50周年を迎える守る会での活動も私にとって、大変な事も沢山ありましたが、とても貴重な経験になりました。夏佳が中学部に入学した頃、盛岡市内で学校卒業後に重症心身障害者を受

け入れる施設は数少なく、あっても定員数に達していたりと、非常に厳しかったため、最初は友人と二人で県内の施設へ何カ所も見学に行き、何とか受け入れてもらう事はできないかお願いして歩きました。最初二人だった活動も盛岡圏域分会として多くの友人も参加し、行政にも働きかけ続けた結果、夏佳達が高等部を卒業する頃には、重症心身障害者を受け入れてくれる施設も新たに少しずつ増えていき、安心して卒業後の生活を送ることができました。

ところが、今度は、家族に何かあった時の預ける場所、「短期入所」「入所施設」が盛岡市内に無い！また新たな活動に。

子供達が地域で暮らしていくために、盛岡市内に入所施設ができないか、いざというときに安心してお願いできる短期入所先はないか。友人と日々模索する日々が続きました。友人達と活動し始めた頃、現在の「盛岡医療センター」へ一度訪ねた事がありましたが、見事に玉砕されました。その後も諦めず活動していった結果、縁あって現在の「さくら病棟」が開棟され、更に短期入所 1 床を確保することができました。文にしてしまえば一言ですが、活動中はお父さん達が子どものお世話をし、現副会長の藤村さん、故人の齋藤前会長、伊東医師、米沢医師、県保健福祉課の皆さん全ての方々にお力を頂き、盛岡市内に療養介護施設として「さくら病棟」が誕生することができました。夏佳も、さくら病棟で元気に生活をしています。しかし古い閉鎖していた病棟をリフォームして開棟しているので、入所している子供達の療育するスペースが非常に狭く、年 3 回ある行事にも皆が集まることができず、1 / 3 回の参加となっています。これからは、入所者全員が集まれる「明るく、みんなの笑顔あふれるホール」がセンター内にできることが今の目標です。

今後も、守る会との関わりを持ちながら活動していきたいと思います。



再度！！ 会費納入のお願い

【会費納入のお願い】 (令和7年4月～令和8年3月)

当会の活動は、会員の皆様の会費で運営されています。

会の運営を円滑に進めるためにも、未納のないようにお願いいたします。

趣旨をご理解の上、未納の方は、**10月末まで**に納入をお願いします。

<正会員>

<賛助会員> 1口 3000円

	年 間	*口座番号*
本 部	8,400 円	ゆうちょ銀行 口座番号 02380—2—2949
岩手県支部	3,600 円	加入者名：岩手県重症心身障害児（者）を守る会
合 計	12,000 円	正会員会費 12,000 円

昨年度も数名、未納の方がおりました。できるだけ、早めに納入をお願いします。

また、会員異動など各種手続きが必要な場合、事務局まで連絡をお願いします。

連絡先：事務局 小松原弘子 Tel:Fax : 019-601-2255 (勤務日：月、水)

住 所：〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内
岩手県重症心身障害児（者）を守る会



【お 願 い】

書き損じハガキを回収しています。ご家庭で眠っているハガキがありましたら、是非、ご寄付をお願いします。

編集後記

全国重症心身障害児（者）を守る会創立から10有余年、全国守る会の運動がこの岩手にも波及し、重い障害を負った子を持つ親や支える方々がその理念に強く共鳴し、重度重複障害児者とその親の寄り添いを築こうと、昭和50年4月に岩手県重症心身障害児（者）を守る会が創立されました。

創立以来の50年に及ぶ、守る会の運動によりできた仕組みや施設などの歩みを振りかえり、これまで支えて頂いた医療、福祉、教育、行政の各機関の皆さまへの感謝を表したいのです。記念式典、記念講演、記念誌発行など、来し方を見て身を正しつつ共に「最も弱いものをひとりももれなく守る」ための運動を継続していきましょう。

会員の皆さまの参加を強く強くお願いします。

(和泉勝彦)

編集者 岩手県重症心身障害児（者）を守る会 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内

発行者 東北障害者団体定期刊行物協会 宮城県仙台市青葉区角五郎1丁目12-6 【頒価100円】